

# 1. WinActorの将来像

## 1.1 WinActorの世界観

### (1) 人間と寄り添うロボ

WinActorは人間を代替するのではなく、人間と寄り添い、互いに成長する関係を構築する。

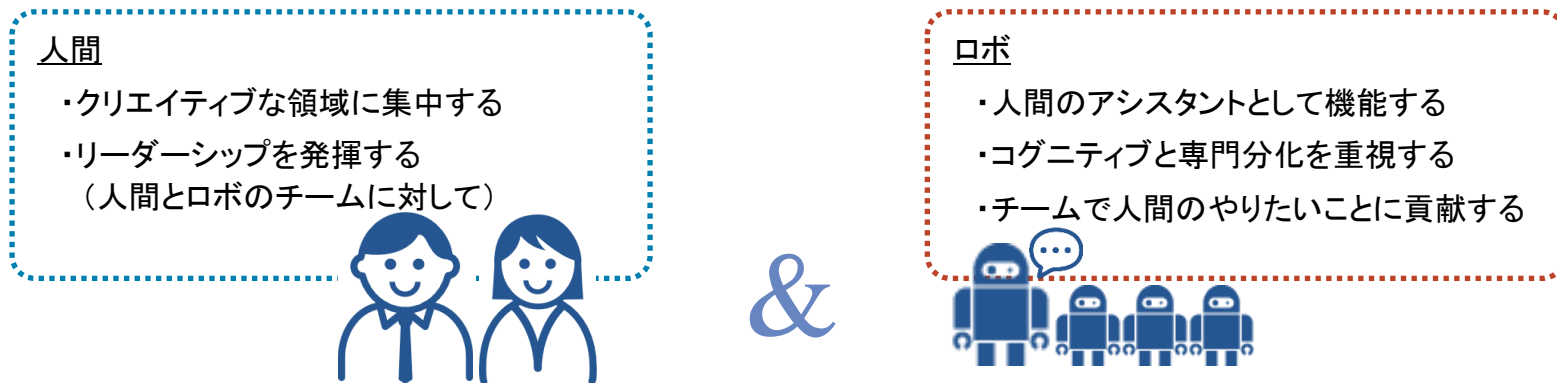
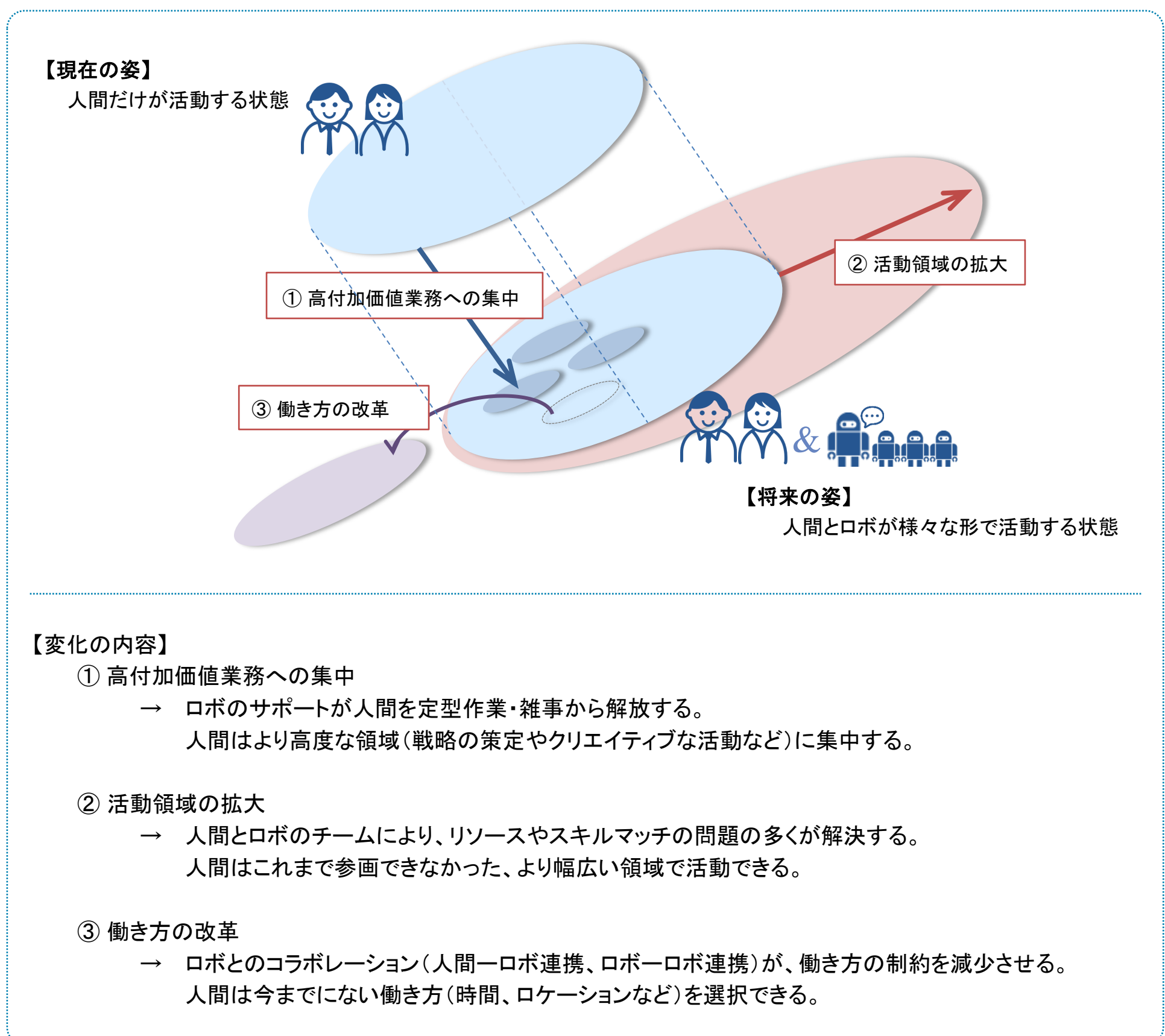


図 1.1-1 WinActor が描く人間とロボの関係性

### (2) 人間の活動を変えていくロボ

ロボは人間の活動領域を変えていく。

WinActorはホワイトカラーの活動を変革する。



### 【変化の内容】

#### ① 高付加価値業務への集中

→ ロボのサポートが人間を定型作業・雑事から解放する。  
人間はより高度な領域(戦略の策定やクリエイティブな活動など)に集中する。

#### ② 活動領域の拡大

→ 人間とロボのチームにより、リソースやスキルマッチの問題の多くが解決する。  
人間はこれまで参画できなかった、より幅広い領域で活動できる。

#### ③ 働き方の改革

→ ロボとのコラボレーション(人間-ロボ連携、ロボ-ロボ連携)が、働き方の制約を減少させる。  
人間は今までにない働き方(時間、ロケーションなど)を選択できる。

図 1.1-2 WinActor による人間の活動の変化

# 1. WinActorの将来像

## 1.2 人間とロボの関わり方

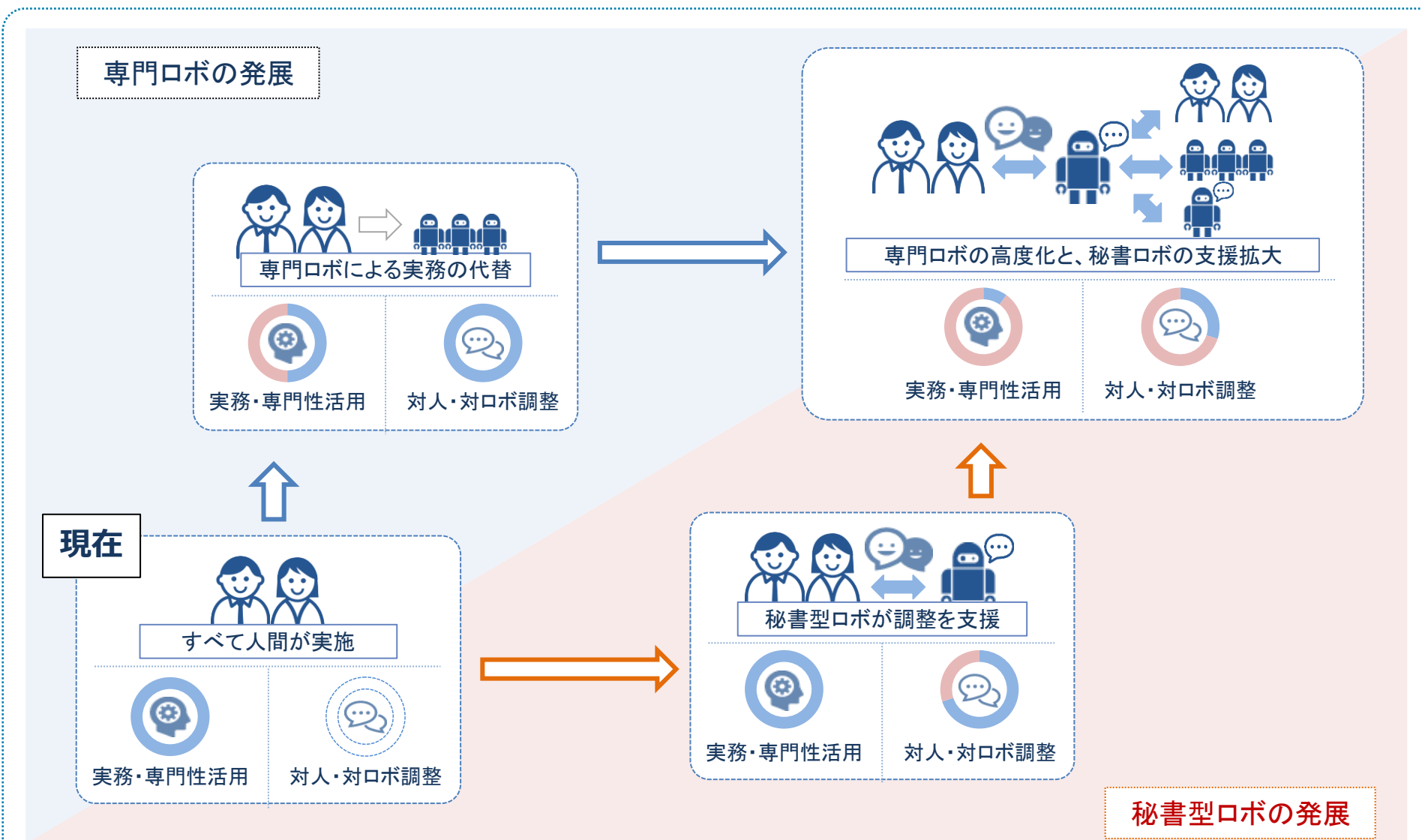
### (1) 人間と寄り添う2種類のロボ

WinActor は「秘書型ロボ」と「専門ロボ」の2種類の概念でロボを構築する。

	人間	秘書型ロボ	専門ロボ群
役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>意思決定</li> <li>高付加価値業務に専念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「発想」と「調整」を支援</li> <li>人間の発想を実務に変換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「実務」と「専門性」を支援</li> <li>データ蓄積と学習で高度化</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロボの発展に応じた役割変更</li> <li>ロボの不得意領域に対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者ごとのカスタマイズ</li> <li>ロボ間で学習内容を共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門領域に応じたサービス</li> <li>学習器による成長</li> </ul>
キーワード	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>分散協調、強化学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シナリオ共有</li> <li>深層学習型／統計的AI</li> </ul>

図 1.2-1 人間と寄り添う2種類のロボ

### (2) 人間とロボの関係性



ロボの発展が人間を高付加価値業務に集中させ、従来より幅広い業務・従来と異なる働き方で活躍できるようになる。

- ・専門ロボの発展は、ロボが実施可能な実務・専門領域を拡大する。
  - 人間を定型作業から解放する。また専門ロボの支援が、より高度な業務の遂行を可能にする。
- ・秘書型ロボは対人・対ロボの調整を担い、人間の負担を最小化する。
  - 自然言語を理解し、人間と会話するようにロボに指示を送ることができる。専門ロボを統制し、人間は専門ロボを意識することなく、高度な専門性を活用することができる。他の人間・ロボと連携を強化し、人間とロボとで作るチームのパフォーマンスを最大化する。

図 1.2-2 WinActor による人間とロボの関係性の変化



## 2. WinActor suiteのロードマップ

### 2.1 WinActor suite の考え方

WinActor は今後、秘書型ロボと専門ロボの概念を軸にした拡張を続け WinActor suite を構築する。  
秘書型ロボはユーザを直接的に支援し、専門ロボは外部のサービスと連携しつつ、要求に応える専門性を発揮していく。

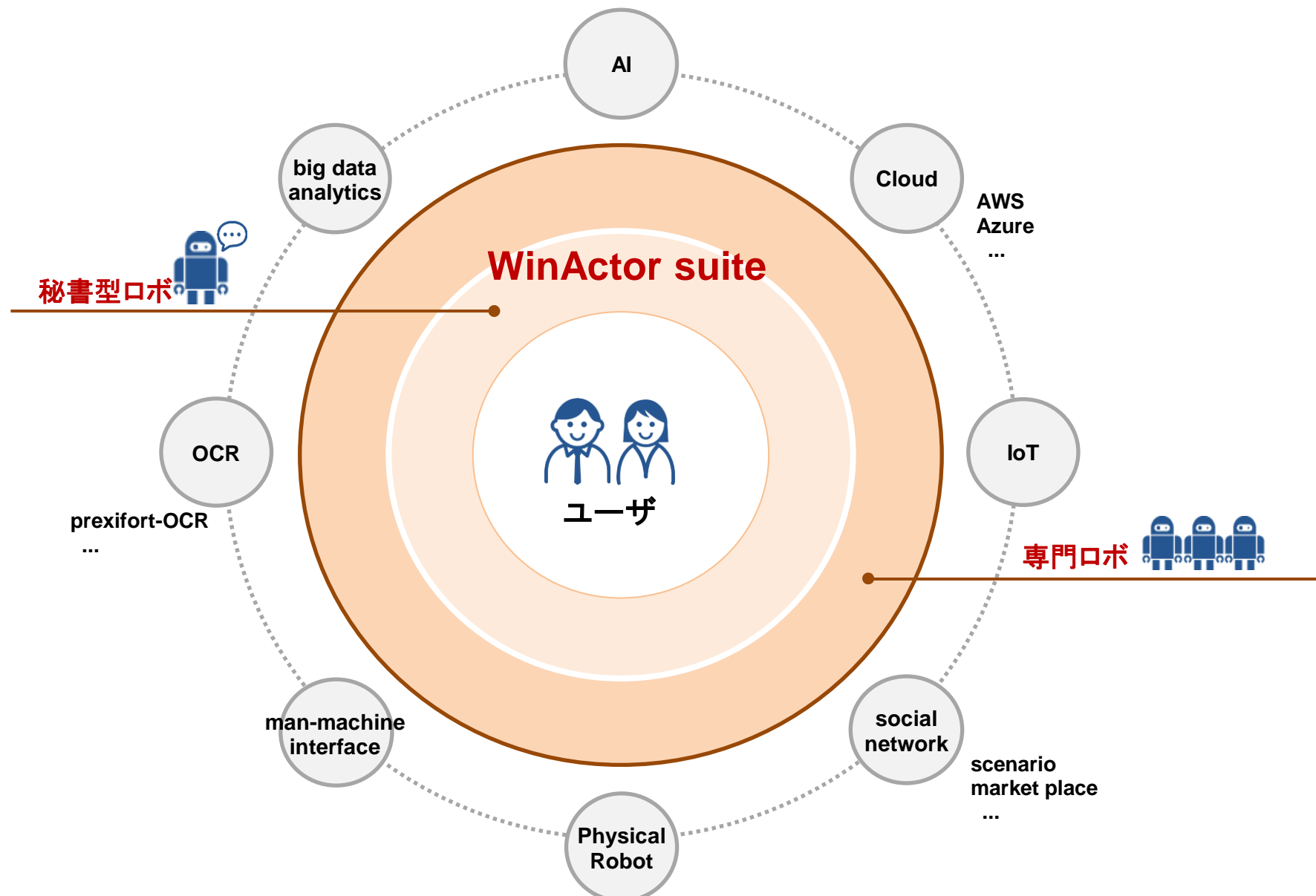


図 2.1-1 WinActor suite の考え方

### 2.2 WinActor suite の段階的成長

#### (1) 成長の方向性

WinActor suite は大きく3つ軸 (2つのロボの方向性と基礎となる自動化の拡大) で成長する。

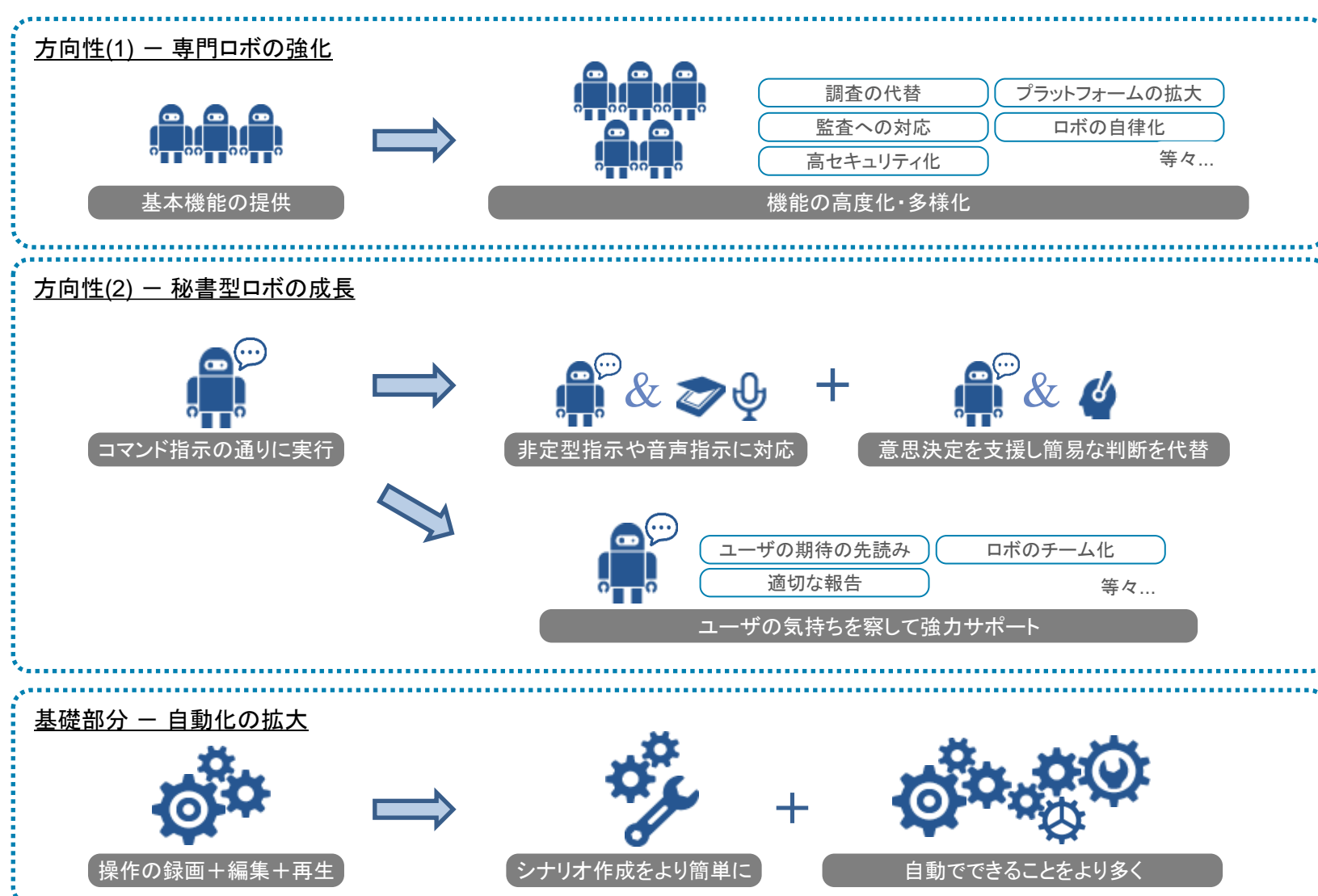


図 2.2-1 WinActor suite の成長の軸



## 2. WinActor suiteのロードマップ

### (2) 成長の時期と段階

また、時期ごとの成長の段階は以下の通り。

各フェーズでの代表的な提供機能を記載する。詳細は次頁「2.3 WinActor suite 機能の提供時期」を参照のこと。

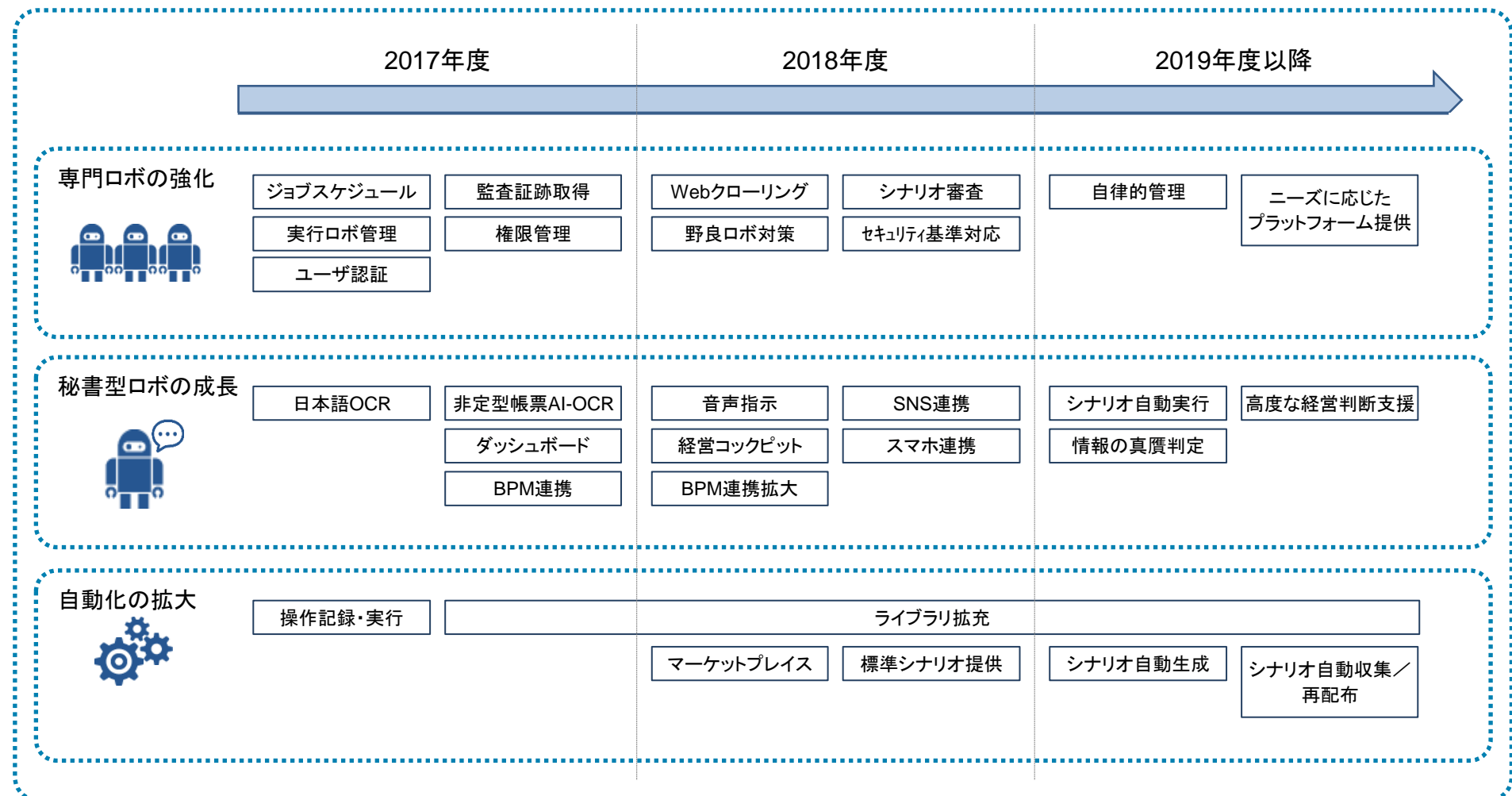


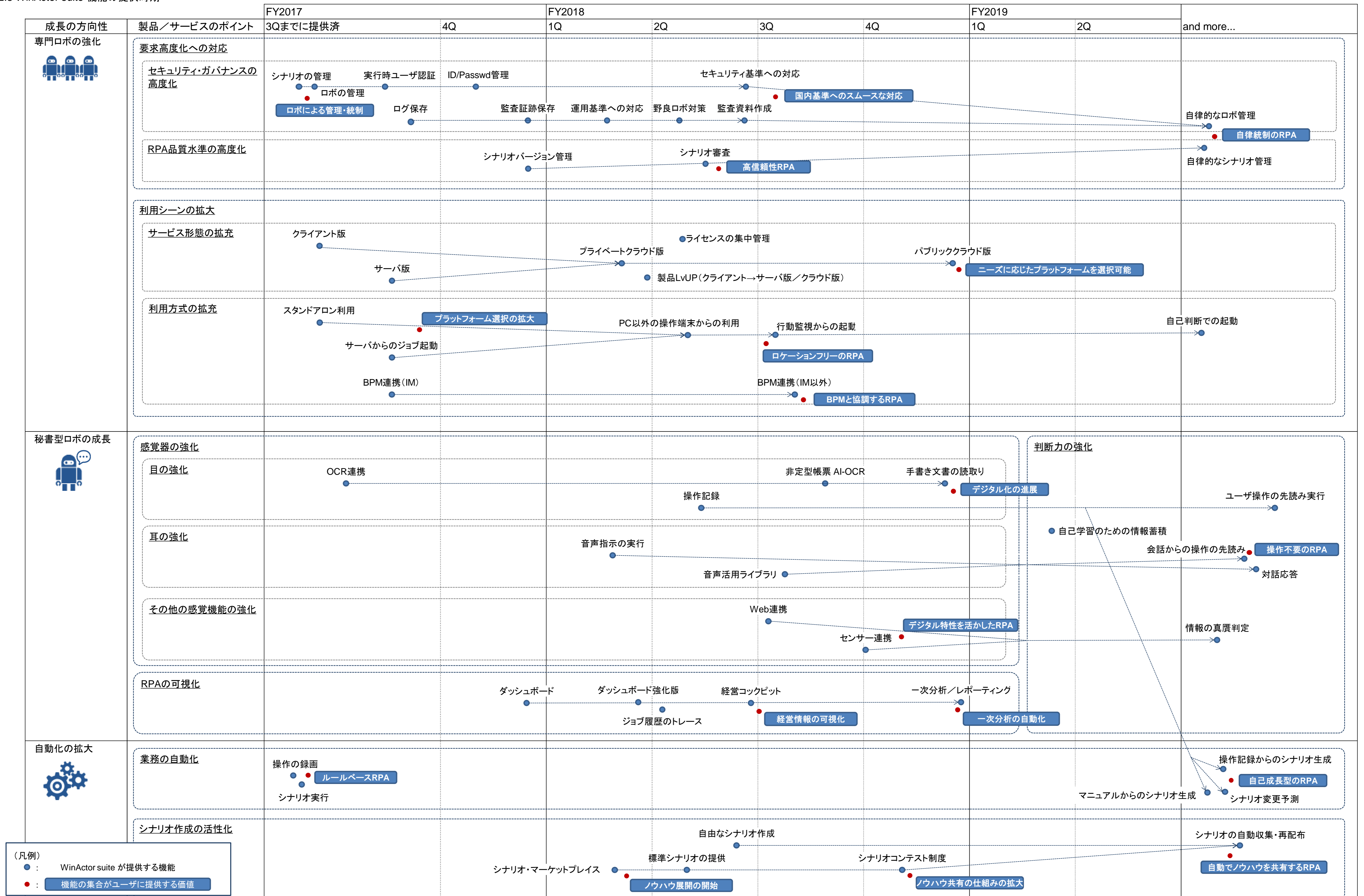
図 2.2-2 WinActor suite のロードマップ(概略版)

※ ロードマップに則り、WinActor suite は2018年度に現在の延長となる機能強化を完了する。  
2019年以降、WinActor suite は秘書型ロボによる新たな自動化の形態を提供していく。



## 2. WinActor suiteのロードマップ

2.3 WinActor suite 機能の提供時期





## 3. WinActor suiteがもたらす未来

### 3.1 WinActor suite がもたらす未来

WinActor suite が成長とともに実現する未来の一例を、ユースケースとして示す。

.....  
(ユースケース一覧)

- a. 専門ロボの強化がもたらすもの
    - a-1. 要求高度化への対応 – RPA品質水準の高度化
    - a-2. 利用シーンの拡大 – 利用方式の拡充
  
  - b. 秘書型ロボの成長がもたらすもの
    - b-1. 感覚器の強化 → 判断力の強化
    - b-2. RPAの可視化
  
  - c. 自動化の拡大がもたらすもの
    - c-1. 業務の自動化
    - c-2. シナリオ作成の活性化
- .....



### 3. WinActor suiteがもたらす未来

a. 専門ロボの強化がもたらすもの

a-1. 要求高度化への対応 - RPA品質水準の高度化

[ 提供する価値 ]

- ・RPA の浸透が進み、あらゆるシーンで WinActor が業務を実行している。
- ・WinActor の誤動作が社会に与える影響が大きいため、シナリオにミスがないかを確認したい。



シナリオ審査で簡単検証

[ ユースケース ]

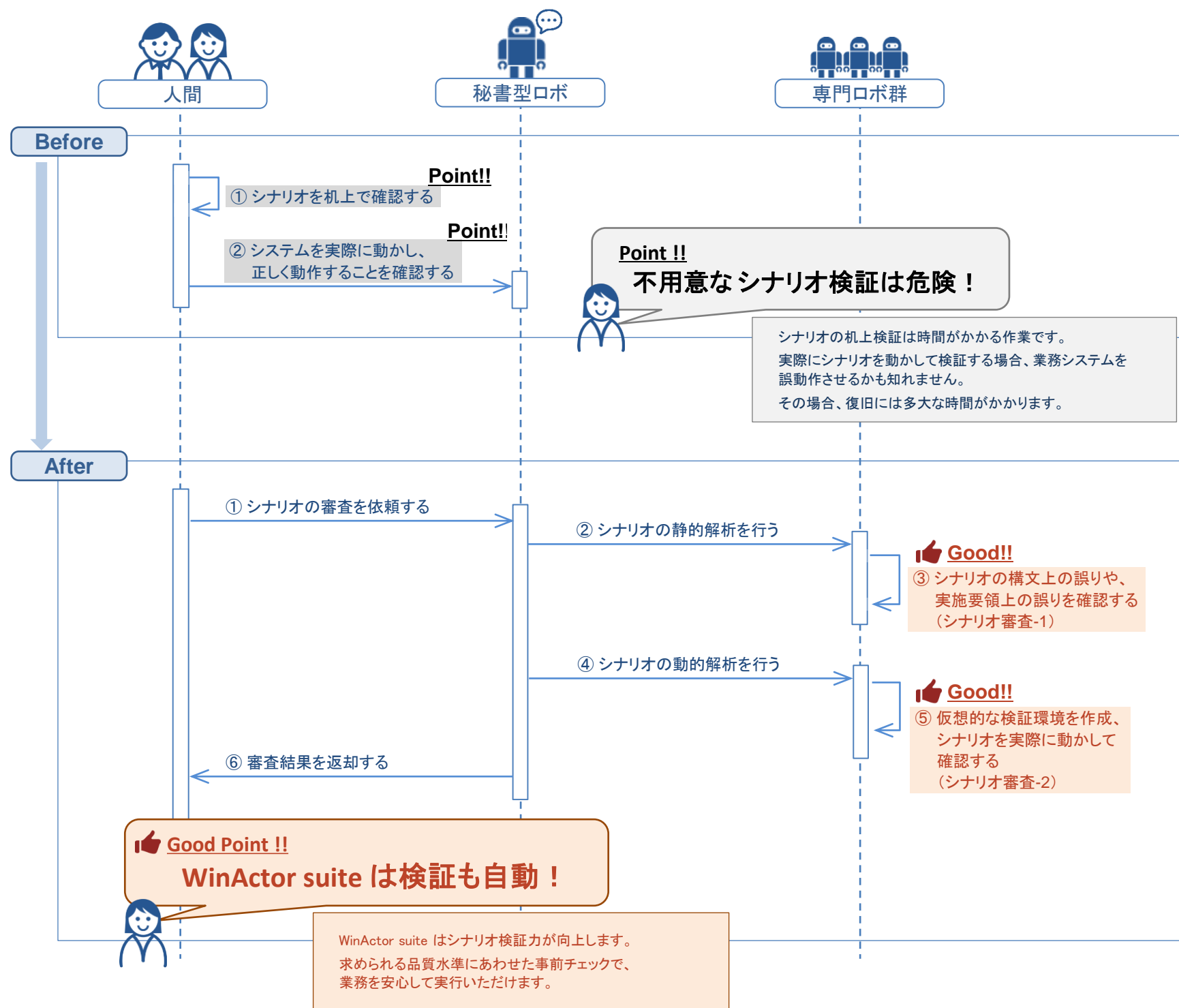
FY2018 提供予定

ユーザストーリー

As a	[role]	シナリオ作成者 に対して
so that	[benefit]	高品質なWinActorシナリオを作成する ために
I want	[goal/desire]	WinActor suite がシナリオを審査する

ユースケース

シナリオを簡単に検証する





### 3. WinActor suiteがもたらす未来

- a. 専門ロボの強化がもたらすもの  
a-2. 利用シーンの拡大 - 利用方式の拡充

[ 提供する価値 ]

- ・働き方の改革で、拠点を選ばない働き方が浸透する。
- ・WinActor がより効率のよい働き方を提案する。



PC以外の端末からの利用 でロケーションフリーなRPAを

[ ユースケース ]

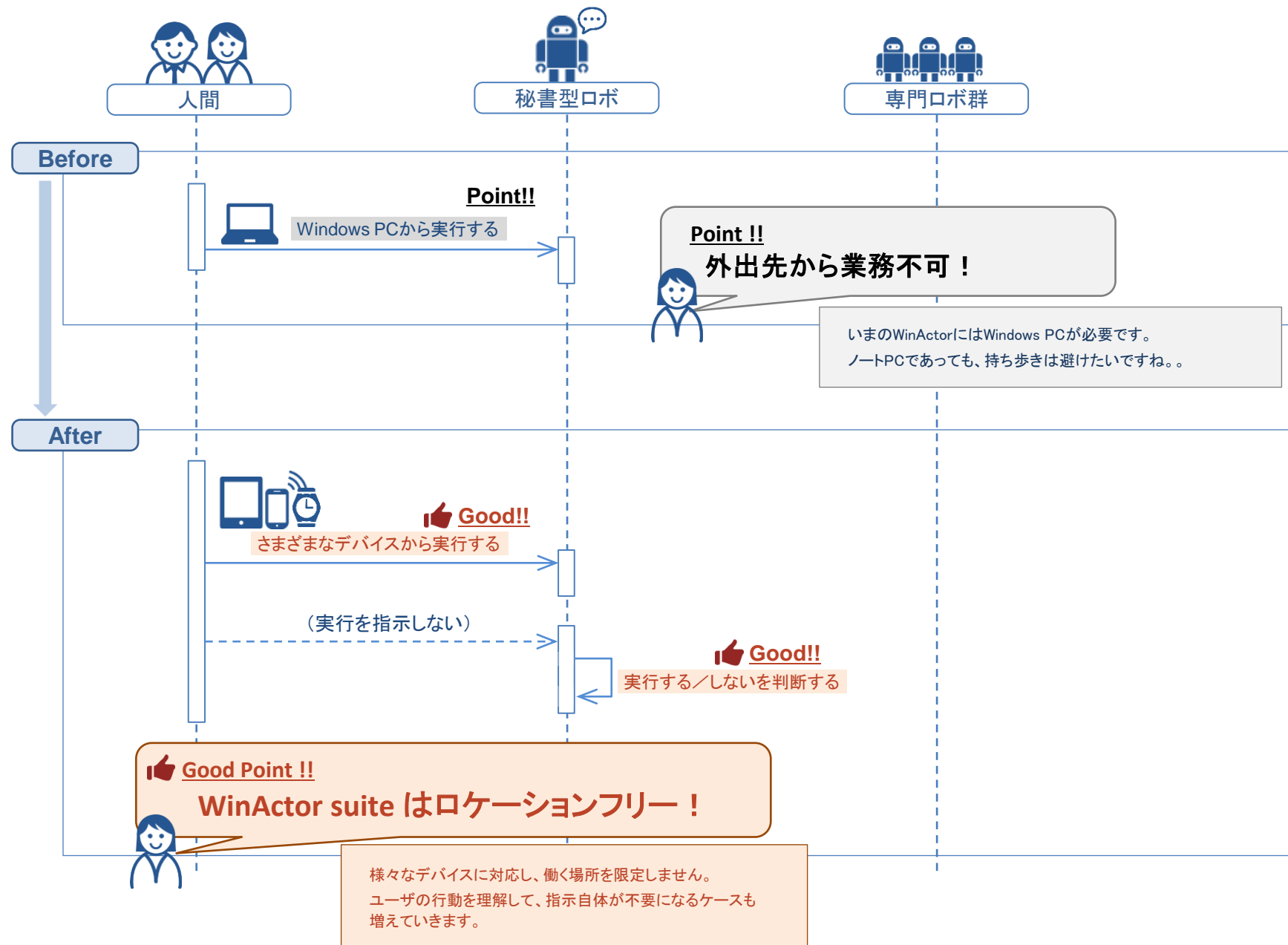
FY2018 提供予定

ユーザストーリー

As a	[role]	業務実施者 に対して
so that	[benefit]	場所を限定しない働き方で業務効率を向上する ために
I want	[goal/desire]	どこからでも WinActor suite を利用できる ようにする

ユースケース

いつでも、どこからでも WinActor suite を利用可能にする







### 3. WinActor suiteがもたらす未来

b. 秘書型ロボの成長がもたらすもの  
b-1. 感覚器の強化 → 判断力の強化

[ 提供する価値 ]

- ・実現したいことがたくさんあるが、手が足りない。
- ・高付加価値業務にだけ集中して、付随する定型業務を WinActor に任せたい。



会話からの先読みと自己判断の起動が発想をすぐに形に

[ ユースケース ]

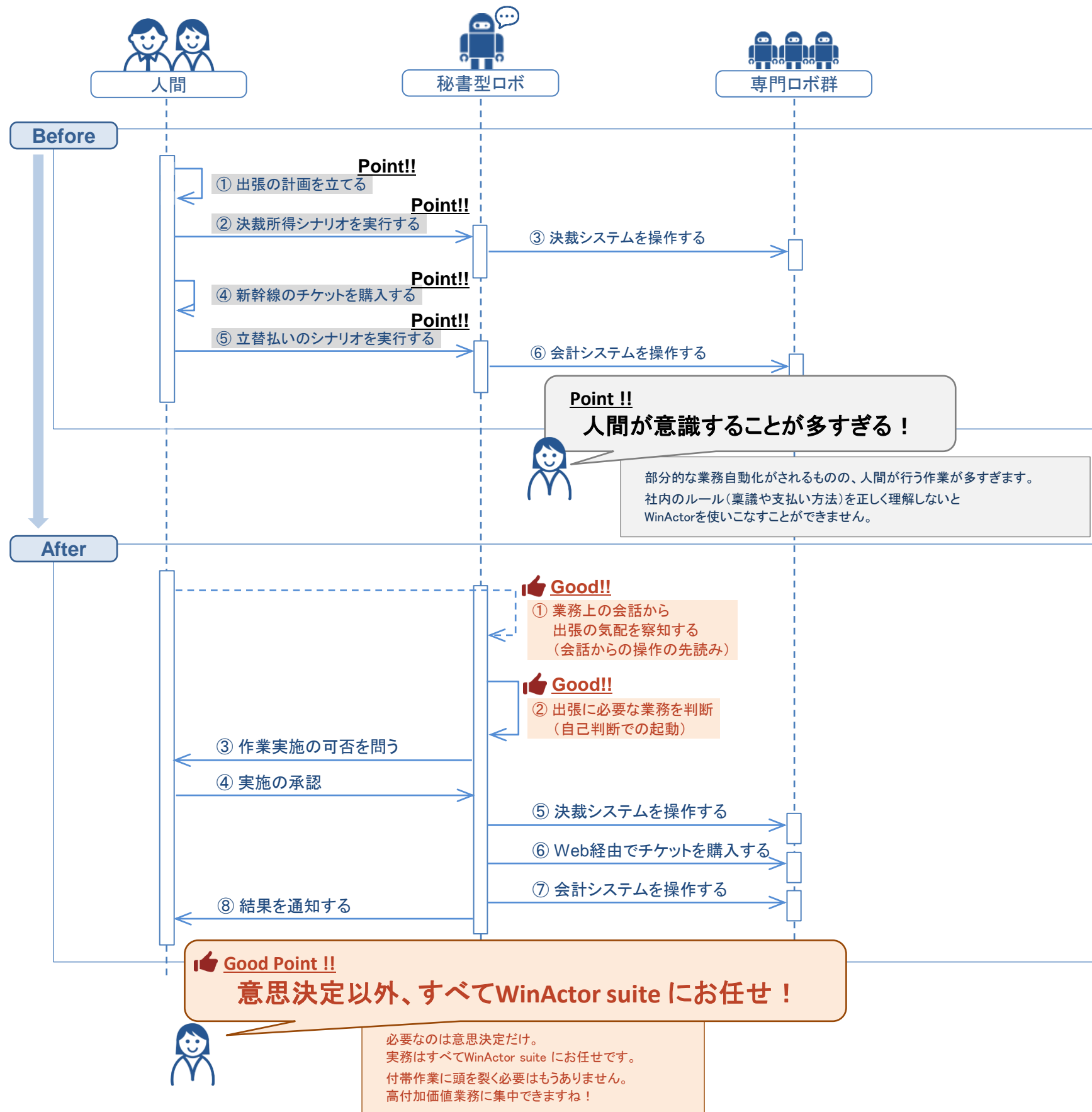
FY2019以降 提供予定

ユーザストーリー

As a	[role]	業務の担当者 に対して
so that	[benefit]	実作業を意識せず、意図した業務を実施できる ために
I want	[goal/desire]	WinActor suite がユーザの意図を察した業務を実行できるようにする

ユースケース

ユーザが指示することなく、新幹線のチケットを手配する





### 3. WinActor suiteがもたらす未来

#### b-2. RPAの可視化

[ 提供する価値 ]

- ・RPA の浸透が進み、あらゆるシーンで WinActor が業務を実行している。
- ・WinActor の導入効果を可視化して、次期投資計画の検討材料としたい。



一次分析/レポートでRPAの効果を検証

[ ユースケース ]

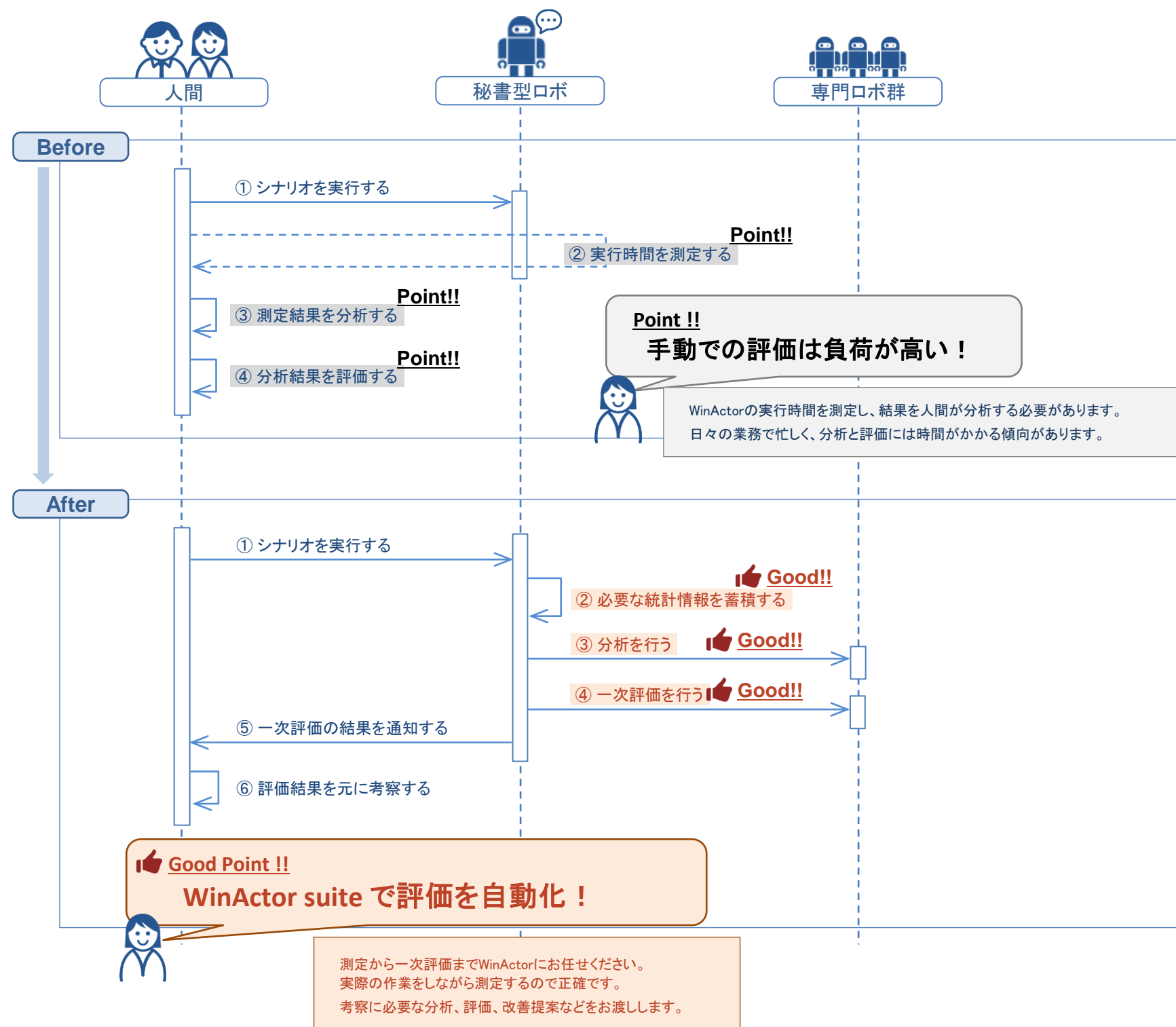
FY2018 提供予定

ユーザストーリー

As a	[role]	業務上の責任者 に対して
so that	[benefit]	RPAの利活用状況を正しく把握する ために
I want	[goal/desire]	WinActor suite が利用状況の測定、可視化、一次解析を行う

ユースケース

RPA の導入効果を測定 & 検証する





### 3. WinActor suiteがもたらす未来

c. 自動化の拡大がもたらすもの  
c-1. 業務の自動化

[ 提供する価値 ]

- ・WinActor はあらゆるアプリケーション操作を自動化するが、シナリオ作成にアプリケーションの知識が必要。
- ・ユーザがアプリケーションの使用法を知ることなく、業務を実行できるようにする。



マニュアルからのシナリオ作成 でユーザの学習コストを削減

[ ユースケース ]

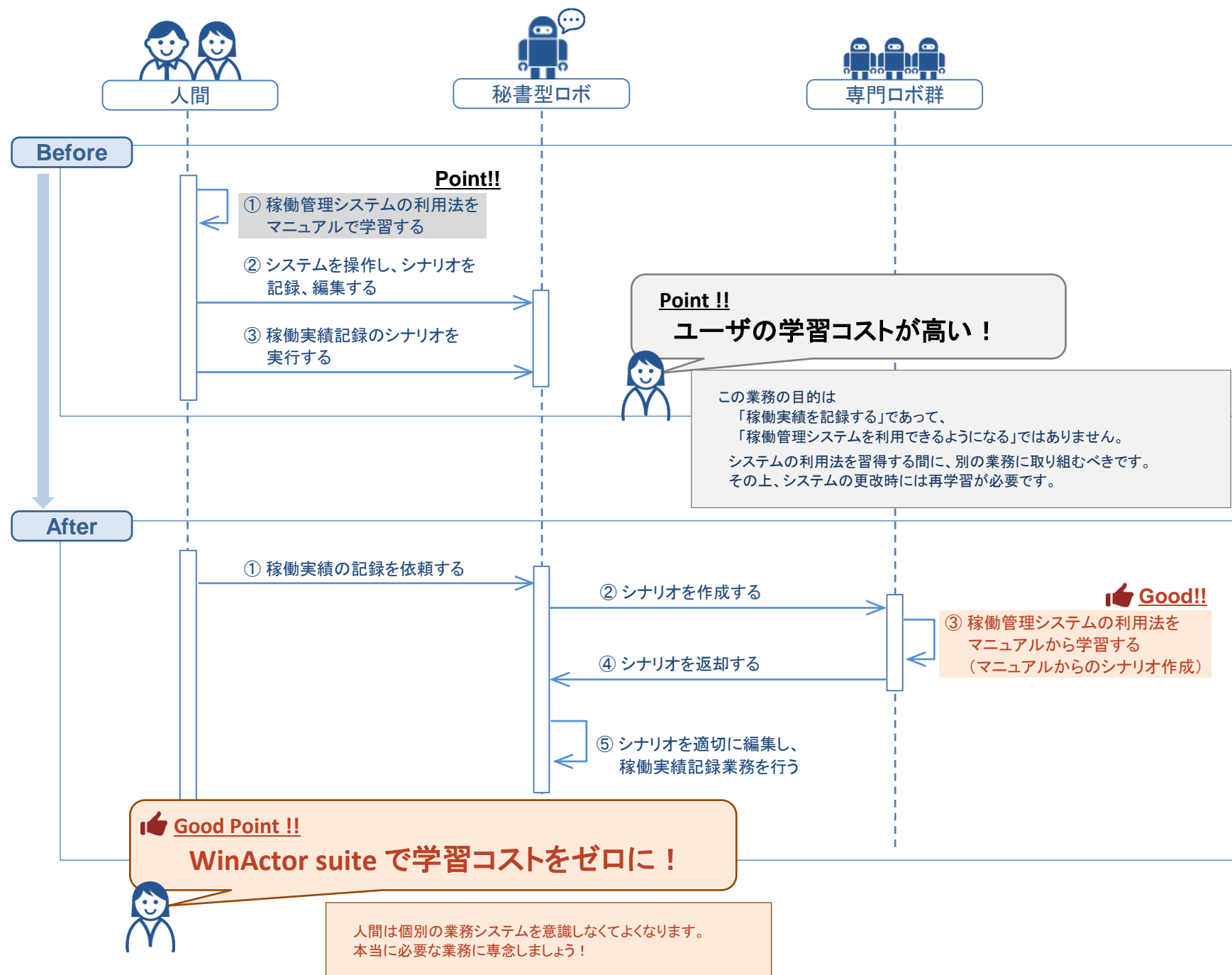
FY2019以降 提供予定

ユーザストーリー

As a	[role]	シナリオ作成者 に対して
so that	[benefit]	業務システムの学習コストを削減する ために
I want	[goal/desire]	WinActor suite がマニュアルを読み込んでシナリオを作成する

ユースケース

業務システムを理解していないユーザでも、業務が遂行できるようにする





### 3. WinActor suiteがもたらす未来

#### c-2. シナリオ作成の活性化

[ 提供する価値 ]

- ・WinActor はシナリオが充実すればするほど、利用価値が高まる。
- ・ユーザ同士でシナリオを共有し、業務の自動化率とユーザの利便性を向上する。



シナリオ・マーケットプレイス でユーザ間の知見共有を後押し

[ ユースケース ]

FY2019以降 提供予定

ユーザストーリー

As a	[role]	シナリオ作成者 に対して
so that	[benefit]	より有用なシナリオを低コストで作成する ために
I want	[goal/desire]	シナリオの共有、評価のためのプラットフォームを提供する

ユースケース

ユーザによるシナリオ作成の負荷を下げる

